まあるい地球の歩き方

子と旅しよう Vol.2

六甲山縦断ハイキング

このルートは一度Y社長と登ったことがあり、迷うことがない知ったルートだ。景色も良くて見どころもあり、岩場や急な斜面があって体力もそれなりに必要で達成感がある。山を下った最後は温泉で疲れた体を癒すことができるおすすめのルートだ。

今回長女と2人きりで出かけるチャンスがあり、すぐにこのコースを思い付いた。家族で出かけると、どうしても深い話ができない。長男とは小学生のときソフトボール部で一緒に活動した。振り返ると長女とはそのような機会がなかった。

思春期にある高校生の長女と最初で最後になるかもしれない2人きりのお出かけだ。

芦屋から六甲山頂を経て有馬温泉へ

「閑静な住宅街を抜けて高座の滝へ。」

ハイキングはＪＲ芦屋駅からスタートした。ＪＲ芦屋駅の駅前広場には、たくさんのハトがいた。娘はハトが苦手で建物の陰に隠れてしまって出てこない。

出だしからつまずいてしまった。僕はバタバタとハトを追い払いながら、娘を強引に連れていく。大都会に憧れて日頃から東京に住みたいと言うのならば、ぜひ克服してほしいものだ。

阪急芦屋川駅を過ぎたあたりから、登山道の入り口まで、関西でも有数の閑静な住宅地の風景を見ながら山裾へと歩き出す。

うちは大阪市内のマンション暮らしだ。便利な立地にあるが、いかんせん狭い。広い一戸建てのマイホームに憧れもあるだろう。マイホームを持つことは一生に一、二度だろう。将来の住まいへの夢を語りながら歩を進めていく。

住宅地を抜けると、川沿いに急こう配のアスファルトの歩道が続いている。道の右手は山の急斜面、左手は清流が流れてきている。マイナスイオンの宝庫だ。15分ほど歩くと高座の滝が現れた。滝の茶屋の家屋が出迎えてくれる。なるほど滝から流れ落ちた水が道沿いの川につながっている。滝から落ちる前の源流は、これから山を登って行ったときに、出会えるのだろうか…。高座の滝は、かつて修験道の道場として使われたそうで、現在でも滝の脇に「灘八十八ヶ所番外五番霊場」が残っている。

「ロックガーデン」

　ロックガーデンへは、高座の滝の横の鳥居の前を通っていく。初めて来た人は、いきなり急な岩場が現れることに驚くだろう。足を踏み外すと大ケガをしかねない。

　娘は、中高一貫の私立校で高校1年からダンス部に入った。中学からクラブを3年間経験している同級生に交じって頑張っている。

　自分が遅れていても、自分を信じてこの岩場のように一歩一歩確実に登ってほしい。いずれ同級生に肩を並べ切磋琢磨できるようになるだろう。

「レールを外しても登る」

　最後の登りでは、知らないうちに進むべき道を見失っていた。

“急こう配すぎて道がなくなったのか？”

“あるいははぐれて迷ってしまったのか？”

“引き返そうか？”

　色々考えながらも斜面を強引に登る。レールが引かれているようでも、そのレールは自分の選択で自分が引くものだ。

「六甲山頂から有馬温泉へ」

最後の急こう配を登ると、六甲山上の公道にでる。しばらく木々や川しか見ていなかったから、人工物の出現にほっとする。その道沿いの山茶屋で休憩を兼ねて遅めの昼食をとる。

そこから20分ほどで六甲山頂につく。今回の山歩きの第一の目標地点だ。

山頂からは、有馬温泉街に向けて六甲山の裏側へ斜面を下っていく。登山道が整備されているので難しくはない。

「有馬温泉から早々に大阪へ」

登山の後は温泉で疲れた体にご褒美！と考えるのは50男なら当然期待するところだ。なにせ今回のハイキングのもう一つのハイライトのはずだった。

温泉街の足湯を恨めしく横目で見ながら、通り過ぎていく。小学校低学年までは上手く言いくるめて、ついてきたのだが…。

やはり父親と一緒だと恥ずかしいのだろうか？それとも温泉というものに興味が薄いのか？早々に神戸電鉄駅から電車に乗り、大阪へ帰ることとなった。

まあ、うまくいかないことも含めて良い思い出となった。

2020年9月20日 八木

お腹を満たして

足湯はスルー

駅へGO!

電車でZzz…

大阪で打上げ